

公益財団法人 全国商業高等学校協会 主催
文部科学省 後援

令和6年度 第99回
簿記実務検定試験
第1級 原価計算

(令和7年1月26日実施)

時間 13時10分から14時40分 (制限時間90分)

注意事項

- 1 監督者の指示があるまで、問題を開いてはいけません。
- 2 問題用紙は1ページから9ページまであります。
- 3 問題用紙の落丁や印刷が不鮮明である場合には、挙手をして監督者の指示に従いなさい。なお、問題についての質問には応じません。
- 4 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 5 途中退室は原則できません。
- 6 試験終了後、問題用紙も回収します。

受験番号

受験番号

1 次の各問いに答えなさい。

(1) 標準原価計算を採用している高知製作所の当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。

a. 完成品の標準原価 b. 能率差異 c. 操業度差異

ただし、i 能率差異は、変動費能率差異と固定費能率差異を合計すること。

ii 解答欄の()のなかに不利差異の場合は(不利)、有利差異の場合は(有利)と記入すること。

資 料

① 標準原価カード

T製品	標準原価カード		金 額
	標準単価	標準消費数量	
直接材料費	¥ 800	2kg	¥ 1,600
直接労務費	標準賃率	標準直接作業時間	¥ 3,600
	¥ 1,200	3時間	
製造間接費	標準配賦率	標準直接作業時間	¥ 2,400
	¥ 800	3時間	
	製品/個あたりの標準原価		<u>¥ 7,600</u>

② 生産データ

月初仕掛品	200個 (加工進捗度60%)
当月投入	600個
合計	800個
月末仕掛品	300個 (加工進捗度50%)
完成品	<u>500個</u>

③ 実際直接作業時間 1,600時間

④ 製造間接費実際発生額 ¥ 1,290,000

⑤ 製造間接費予算額 ¥ 1,320,000
(公式法変動予算)

変動費率	¥ 500
固定費予算額	¥ 495,000
基準操業度 (直接作業時間)	1,650時間

- (2) 個別原価計算を採用している茨城製作所における下記の資料によって、次の製造原価報告書の（ア）から（ウ）に記載する金額を求めなさい。なお、製造間接費は直接作業時間を配賦基準として予定配賦している。

製造原価報告書		
茨城製作所	令和〇年/月/日から令和〇年/2月3/日まで	(単位：円)
I 直接材料費		(ア)
II 直接労務費		()
III 直接経費		()
IV 製造間接費		
1. 間接材料費	331,000	
2. 間接労務費	()	
3. 間接経費	()	
実際発生額	(イ)	
製造間接費配賦差異	()	()
当期製造費用		()
期首仕掛品棚卸高		()
合計		()
期末仕掛品棚卸高		()
当期製品製造原価		(ウ)

資 料

① 素 材	当期消費高	¥2,273,000 (うち間接材料費 ¥30,000)	
② 工場消耗品	期首棚卸高	¥ 72,000	当期仕入高 ¥ 293,000
	期末棚卸高	¥ 64,000	
③ 賃 金	実際平均賃率	作業時間/時間につき ¥960	
	直接作業時間	3,200時間	間接作業時間 650時間
④ 従業員賞与手当	当期消費高	¥ 469,000	
⑤ 健康保険料	当期消費高	¥ 312,000	
⑥ 外注加工賃		¥280,000 (製造指図書#1)	
⑦ 電力料	当期支払高	¥ 142,000	当期測定高 ¥ 157,000
⑧ 減価償却費	当期消費高	¥ 204,000	
⑨ 製造間接費	予定配賦額	¥1,996,800	
⑩ 仕掛品	期首棚卸高	¥ 418,000	期末棚卸高 ¥ 634,000

- (3) 単純総合原価計算を採用している神奈川工業株式会社の次の資料から、完成品原価を求めなさい。
 ただし、i 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。
 ii 月末仕掛品原価の計算は平均法による。
 iii 正常減損は製造工程の終点で発生しており、正常減損費は完成品の上に負担させる。

資 料

① 月初仕掛品原価	
素材費	¥ 992,000
加工費	¥ 1,104,000
② 当月製造費用	
素材費	¥ 11,996,800
加工費	¥ 24,283,200
③ 生産データ	
月初仕掛品	800kg (加工進捗度50%)
当月投入	<u>8,000kg</u>
合計	8,800kg
月末仕掛品	500kg (加工進捗度60%)
正常減損	<u>100kg</u>
完成品	<u><u>8,200kg</u></u>

- (4) 群馬製作所では、直接原価計算をおこない利益計画をたてている。当月における下記の資料から、次の金額または数量を求めなさい。
- 当月の営業利益
 - 損益分岐点の売上高
 - 変動製造費が製品/個あたり ¥320 増加した場合の損益分岐点における販売数量

資 料

① 販売数量	820個
② 販売単価	¥4,000
③ 変動製造費 (製品/個あたり)	¥ 1,840
④ 変動販売費 (製品/個あたり)	¥ 560
⑤ 固定製造間接費	¥950,000
⑥ 固定販売費及び一般管理費	¥266,000

(5) 愛媛工業株式会社は、等級別総合原価計算を採用し、1級製品と2級製品を製造している。下記の資料をもとにおこなわれた、経理部の上司と新入社員の会話文を読み、次のaとbに答えなさい。

a. と にあてはまる数値と用語の正しい組み合わせを1つ選び、その番号を記入しなさい。

1. 1.25 等価係数
2. 0.8 等価係数
3. 1.25 配賦率
4. 0.8 配賦率

b. に入る2級製品の製品単価の金額を求めなさい。

資 料

① 製品/個あたりの重量	1級製品	500g	2級製品	400g
② 完成品数量	1級製品	2,400個	2級製品	3,200個

経理部の上司と新入社員の会話文

新入社員： 当社で取り扱っている製品のような、同じ種類でも、大きさや重さ・品質等が異なる場合、それぞれの製造原価を計算するには、どのような方法が一番適しているのでしょうか。

上 司： それは、等級別総合原価計算です。

当社では、まず通常の単純総合原価計算の方法で完成品原価を計算します。当月の完成品製造原価は7,440,000円で、この製造原価を等級別に分けていきます。

新入社員： 等級別に製造原価を分けるときは、どのようにするのでしょうか。

上 司： 各製品の大きさや重さ・品質等、原価の発生と製品の性質にもとづいた数値を使って分けていきます。当社では、各製品の1個あたりの重量を基準とした比を用いて計算していきます。

新入社員： そうすると、1級製品の重量500gを基準とした場合は、1級製品は1.0となり、2級製品は0.8となりますか。

上 司： そのとおりです。2級製品の重量400gを基準とした場合では、2級製品は1.0となり、1級製品は となります。このように、製品ごとに設定する数値を といい、等級製品ごとの原価の負担割合を表しています。

また、 に完成品数量をかけたものを積数といい、基準となる製品に見立てた数量を求めます。その積数をもとに、等級別に製造原価を配分し、製品単価を求めます。

では、資料をもとに製品単価を計算するといくらになりますか。

新入社員： 1級製品の製品単価は () 円、2級製品の製品単価は 円ですか。

上 司： よく理解していますね。このことから、基準とする製品を変えたとしても、最終的に計算される製品単価は同じになるといえますね。

2

埼玉製作所は、組別総合原価計算を採用し、A組製品とB組製品を製造している。下記の資料によって、

- (1) 組間接費をA組とB組に配賦する仕訳を示しなさい。なお、組間接費は直接作業時間を基準として配賦する。
- (2) 組別総合原価計算表を作成しなさい。
- (3) B組仕掛品勘定（B組製造勘定）を完成しなさい。

ただし、i 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。
 ii 月末仕掛品原価の計算は先入先出法による。

資 料

a. 月初仕掛品原価 A組 ￥618,000 (素材費 ￥372,000 加工費 ￥246,000)
 B組 ￥490,000 (素材費 ￥294,000 加工費 ￥196,000)

b. 当月製造費用

	A組直接費	B組直接費	組間接費
材 料 費	￥1,972,000	￥1,178,000	￥ 104,000
労 務 費	￥1,875,000	￥1,250,000	￥ 570,000
経 費	￥ 255,000	￥ 572,000	￥ 126,000

c. 生産データ

	A 組	B 組
月初仕掛品	600個 (加工進捗度50%)	500個 (加工進捗度40%)
当月投入	<u>2,900個</u>	<u>1,900個</u>
合 計	3,500個	2,400個
月末仕掛品	500個 (加工進捗度40%)	400個 (加工進捗度60%)
完 成 品	<u>3,000個</u>	<u>2,000個</u>

d. 直接作業時間

A組 750時間 B組 500時間

問題を読みやすくするために、このページは空白にしてあります。

3 は次のページにあります。

3

個別原価計算を採用している栃木製作所の下記の取引によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) /月/5日と3/日⑤の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 工場消耗品勘定・第1製造部門費勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) A製品（製造指図書#1）の原価計算表を作成しなさい。
- (4) 部門費振替表を直接配賦法によって完成しなさい。
- (5) /月末の賃金未払高を求めなさい。

ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材	400個 @ ¥2,850	¥1,140,000	
工場消耗品	320" " " 160	¥ 51,200	
仕 掛 品（製造指図書#1）		¥3,414,000	（原価計算表に記入済み）
賃 金（未払高）		¥ 352,000	

- ii 素材の消費高の計算は先入先出法，工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
- iii 賃金の消費高の計算は実際平均賃率を用いている。
- iv 製造間接費は部門別計算をおこない，直接作業時間を配賦基準として予定配賦している。

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予定額（予算額）	¥7,992,000	¥4,800,000
年間予定直接作業時間（基準操業度）	21,600時間	19,200時間

取 引

/月 6日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ，代金は掛けとした。

素 材	600個 @ ¥2,900	¥1,740,000	
工場消耗品	1,500" " " 160	¥ 240,000	

/5日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け，素材800個を消費して製造を開始した。

24日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃金総額	¥5,348,000	
うち、控除額	所得 税	¥427,800
	健康保険料	¥213,900

3/日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は480個であった。よって，消費高を計上した。（間接材料）

② 次の直接作業時間によって，製造部門費を予定配賦した。

		合計		第1製造部門	第2製造部門
		合計	内訳		
直接作業時間	製造指図書#1	1,800時間	1,100時間	700時間	
	製造指図書#2	1,650時間	750時間	900時間	
間接作業時間		300時間			

③ 当月の賃金実際消費高を上記②の作業時間によって計上した。ただし，当月の実際平均賃率は作業時間/時間あたり ¥1,400であった。

④ 健康保険料の事業主負担分 ¥213,900 を計上した。

⑤ 当月の製造経費消費高を計上した。

電 力 料	¥154,200	
保 険 料	¥ 18,000	
減価償却費	¥ 85,000	

⑥ A製品（製造指図書#1）900個が完成した。

⑦ 製造間接費を次のように各部門に配分した。

第1製造部門 ￥576,750

第2製造部門 ￥328,750

動力部門 ￥165,000

修繕部門 ￥35,000

⑧ 補助部門費を次の配賦基準によって各製造部門に配賦した。

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門	動力部門	修繕部門
動力部門費	kW数×運転時間数	24kW×250時間	10kW×200時間	—	8kW×120時間
修繕部門費	修繕回数	12回	8回	4回	—

⑨ 第1製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

⑩ 第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

4 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

当座預金	製品	第1工程半製品	素材
買入部品	健康保険料預り金	売上原価	(棚卸減耗損費)
健康保険料	特許権使用料	仕掛品	(第1工程仕掛品)
第2工程仕掛品 (第2工程製造)	第1製造部門費	第2製造部門費	賃率差異
本社	工場		

a. 単純総合原価計算を採用している千葉製作所では、月末に特許権使用料の月割額を計上した。ただし、1年分の特許権使用料は ¥1,680,000 である。

b. 個別原価計算を採用している徳島製作所の月末における素材の实地棚卸数量は490kgであった。よって、次の素材に関する当月の資料にもとづいて、棚卸減耗損を計上した。ただし、当月の消費数量は2,000kgであり、消費単価の計算は総平均法によっている。

1月1日	前月繰越	600kg	1kgにつき ¥670	¥402,000
10日	受入	900kg	1kgにつき ¥720	¥648,000
20日	受入	1,000kg	1kgにつき ¥750	¥750,000

c. 会計期末にあたり、賃率差異勘定の残高を売上原価勘定に振り替えた。なお、賃率差異勘定の前月繰越高は ¥2,000 (借方) であり、当月の賃金の実際消費高は予定消費高より少なく、この差額の ¥5,000 は賃率差異勘定に振り替えられている。

d. 工程別総合原価計算を採用している香川工業株式会社は、月末に工程別総合原価計算表を作成し、各工程の完成品原価を次のとおり計上した。ただし、各工程の完成品はすべていったん倉庫に保管しており、当月中に倉庫から第2工程(最終工程)に投入した第1工程の完成品原価は ¥1,870,000 である。なお、当社では第1工程の完成品原価をすべて第1工程半製品勘定に振り替えている。

第1工程	¥2,900,000	第2工程	¥3,600,000
------	------------	------	------------

e. 工場会計が独立している東京工業株式会社の本社は、健康保険料の事業主負担分 ¥650,000 と従業員負担分 ¥650,000 をあわせた ¥1,300,000 を小切手を振り出して支払った。ただし、事業主負担分のうち ¥380,000 は、工場の従業員に対するものである。なお、健康保険料預り金勘定は本社のみに向けてある。(本社の仕訳)

第99回 簿記実務検定 1級 原価計算 [解答用紙]

1

(1)

a	¥	b	¥ ()
c	¥ ()		

(2)

ア	¥	イ	¥
ウ	¥		

(3)

¥

(4)

a	¥	b	¥
c			個

(5)

a	b
	円

1 得点		2 得点		3 得点		4 得点		総得点	
---------	--	---------	--	---------	--	---------	--	-----	--

試験場校	受験番号

2

(1)

借 方	貸 方

(2) 組別総合原価計算表
令和〇年/月分

摘 要	A 組	B 組
組 直 接 費 素 材 費		
加 工 費		
組 間 接 費 加 工 費		
当 月 製 造 費 用		
月 初 仕 掛 品 原 価 素 材 費	372,000	294,000
加 工 費	246,000	196,000
計		
月 末 仕 掛 品 原 価 素 材 費	340,000	
加 工 費		252,000
完 成 品 原 価		
完 成 品 数 量	3,000 個	2,000 個
製 品 単 価	¥	¥

(3) ※B組仕掛品勘定はB組製造勘定を意味している。

B 組 仕 掛 品

前 月 繰 越	490,000	()	()	
素 材	1,178,000	次 月 繰 越	()	
労 務 費 ()				
経 費 ()				
() ()				

2	
得点	

3

(1)

	借 方	貸 方
/月/5日		
3/日⑤		

(2)

工 場 消 耗 品	
1/1 前 月 繰 越	51,200
第 / 製 造 部 門 費	

(3)

製造指図書 # /		原 価 計 算 表				集 計	
直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費			金 額	摘 要	金 額
		部 門	時 間	配 賦 率			
2,526,500	702,500	第 /	500	370	185,000	直接材料費	
						直接労務費	
						製造間接費	
						製 造 原 価	
						完成品数量	個
						製 品 単 価	¥

(4)

直接配賦法		部 門 費 振 替 表				
		令和〇年/月分				
部 門 費	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第 / 部 門	第 2 部 門	動 力 部 門	修 繕 部 門
部門費合計		1,105,500	576,750	328,750	165,000	35,000
動力部門費	kW数×運転時間数					
修繕部門費	修繕回数					
配賦額合計						
製造部門費合計						

(5)

¥

3	
得点	

4

	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		

4 得点	
---------	--